

選評

35回目を迎えた今年の新聞広告賞は、広告主部門に348作品、新聞社企画部門に66作品の応募がありました。ご関係の皆さまに深く感謝申し上げます。

選考は3次にわたって行い、7月24日に開催した選考委員会（広告委員会）で新聞広告大賞をはじめ各受賞作品を決めました。選考にあたっては、評価プロセスの客観性、透明性、審査の公平性を担保するため、新聞社外から審査委員をお招きしています。今回も選考委員会に先立って開かれた選考分科会での選考に、アートディレクターの中島祥文さん、コピーライター・クリエイティブディレクターの一倉宏さんのお二人に加わっていただきました。

新聞広告大賞に選ばれた資生堂の「2015企業広告 50 selfies of Lady Gaga」は、生活者一人ひとりの「あなたの美しさ」を応援するメッセージを、レディー・ガガの自撮り写真とストレートなコピーで伝えた作品です。全国50紙にそれぞれ異なる写真を使って展開し、ウェブ上で話題になるなど、若者を中心に大きな注目を集めました。このほか、新聞広告賞に広告主部門、新聞社企画部門の各5作品、広告主部門優秀賞10作品、新聞社企画部門奨励賞5作品が選ばれました。

各賞の選考に関しては熱い議論が交わされ、新聞広告を広く訴えるためにふさわしい作品が選ばれたと思います。今後この受賞作品がいろいろな意味で刺激を与えて、新聞広告のさらなる活性化につながってほしいと考えております。

お忙しい中、ご応募いただいた広告主の皆さまと関係各位に改めて感謝いたしますとともに、今回の受賞が各社の社業、新聞広告の発展の一助となれば幸いです。今後とも新聞広告に一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2015年10月20日

第35回新聞広告賞選考委員会

一般社団法人日本新聞協会 広告委員会

委員長 鈴木克之

紙による実像は、新しい表現の領域を開いた

今年は二つの、デジタル時代を象徴させる現象がみられた。一つは「iPhone 6で撮影」のキャンペーン。デジタルで生まれた画像を、紙によって実像化してできた広告。もう一つは、今年の広告主部門の大賞に輝いた、資生堂のお正月広告。レディー・ガガのスマホによるセルフポートレートで、元日一番の話題をさらった。スマホでなければ撮れないリアリティや構図で、ここでも紙による実像は、新しい表現の領域を開いたと言える。

広告主部門本賞は、5作品が受賞。鹿島建設は、姫路城の保存修理をテーマに、万が一にも、屋根や壁を傷つけることの許されないシビアな仕事を語った。キッコーマンは、和食と春夏秋冬の深い関係を描いた、詩情豊かな言葉とビジュアルが、共感を高めている。静岡中島屋ホテルチェーンは、同窓会アルバムと家族物語のリアルな逸話で、読者にこの広告に載ってみたいと思わせた。小学館は、一家4世代が、『小学一年生』を持つチャーミングな記念写真で、特に曾祖母が持つ表紙が興味を惹きつける。パナソニックは、食器洗い乾燥機の訴求ポイントを県ごとの普及率によって変えた、データによる機能広告で説得力を持たせた。

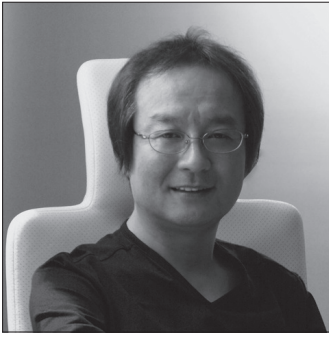
新聞社企画部門では、5作品が受賞。秋田魁新報社は、世界の美人100に選ばれた佐々木希さんの等身大を、30段4面を前例のない紙面づくりで実現し元気を届けた。上毛新聞社は、富岡の世界文化遺産登録を記念し、双六を使って全体像を描き、絹新聞と呼べる紙面で、未来へのメッセージを発信。北日本新聞社は、新聞を富山もようのテキスタイルデザインでラッピングし、読者に新しい視角を与え、魅力を伝えた。佐賀新聞は、有田焼再生のためディズニーなどの異業種との融合により改革に挑む姿が新鮮だ。中日新聞社は、可変印刷を導入、一部一部違う印刷が可能になったことで、新聞のパーソナルな分野への一步を踏み出した。今年も見られた各新聞社による多彩で意表をつく手法には、新たな発見や驚きがある。



なかしましょうぶん
中島祥文氏

アートディレクター
株式会社ウエーブ クリエーション
代表取締役
多摩美術大学名誉教授

1944年愛知県生まれ。
多摩美術大学卒。
J.W.トンプソンなどを経て、81年ウエーブ クリエーションを設立。
東京アートディレクターズクラブ会員(02～04年審査委員長)、朝日新聞社広告賞審査員(92年から)、日本経済新聞社広告賞審査員(97年～)、読売新聞社広告賞審査員(96～99年)を務める。
東京ADC会員最高賞、日本宣伝賞山名賞ほか多数受賞。
著書に『考えるデザイン』(09年・美術出版社)。



いちくわ ひろし
一倉 宏氏

コピーライター
クリエイティブディレクター

1955年生まれ。
サントリー宣伝部にコピーライターとして勤務。1990年より独立し、一倉広告制作所を設立。
代表作に、モルツ「うまいんだな、これがっ」、パナソニック「きれいなおねえさんは好きですか」、ソニーウォークマン「哲学するサル」編、NTTデータ「ホーキング博士」編他、ファミリーマート「あなたとコンビニ」、JR東日本「MY FIRST AOMORI」などがある。

旅先の駅前などで、その市町村のスローガンというのだろうか、キャッチフレーズのようなものが掲げられているのを目にする。それをコピーとして見れば、どうも常套句が多くて似たり寄ったりなのが残念だ。気候風土も育まれた文化も、全国各地それぞれの多様性があるはずなのに。そう、多様性はとても大切なものだ。なにごとにつけ画一化や規格化の進む場面は多いが、ほんとうの豊かさは多様性の中にこそあると思う。

新聞広告の全国大会ともいえる本賞は、その意味で各地域の多様性を見ることができ、じつに意義深いし楽しみでもある。日本全国に多様な新聞が存在し、多様な紙面を展開している。そもそも「新聞」自体が「多様性の器」なのだとも、あらためて気づかされる。日常生活に密着したメディアだからこそ、その器は広い。

広告主部門の大賞となった「資生堂」の企業広告は、ナショナルブランドの正月広告ながら、50紙にすべて異なる50種の写真を使用して話題を集めた。その多様性とスケールの掛け算は大賞にふさわしいものだ。本賞5作品や優秀賞10作品も、電波媒体のキャンペーン型と異なる様々な切り口やアイデアで、読ませる、気づかせる等、新聞広告ならではの魅力を大いに発揮していた。

新聞社企画部門は、各紙が全力をあげて取り組んだ大型企画の勢揃いだった。ビジュアルの迫力で圧倒するもの。歴史にアイデンティティーを発見するもの。地域の体温を感じるもの。新聞広告には、規格化されない自由な発想と編集、多様性と可能性がありうることを証明している。この部門では評価する観点も多様なものだ。本賞と奨励賞以外にも、たとえばコピーやデザインなどで秀作と思うものがあった。広告クリエイティブの視点からも、今後のこの部門の発展に期待している。

ほんとうの豊かさは多様性の中にこそあると思う

応募状況・選考経過

応募・推薦状況

2014年6月1日から2015年5月31日までに、新聞協会会員新聞に掲載された広告活動を対象に、広告主企業、広告会社、新聞社に応募・推薦を呼びかけた結果、広告主部門に348作品（単独広告主345作品、複数広告主3作品）、新聞社企画部門に66作品（単独企画62作品、共同企画4作品）の応募・推薦があった。

選考経過

新聞協会会長の任命する委員をもって新聞広告賞選考委員会（＝広告委員会）が組織され、下記のとおり応募・推薦作品の審査・選考を行った。選考委員会委員長は鈴木克之・広告委員会委員長（日経）が務めた。

1. 新聞広告賞予備選考会＝6月11～24日

選考委員会は、広告委員会の下部組織である広告プロモーション部に予備選考を委嘱した。新聞広告賞予備選考会は、広告主部門、新聞社企画部門の両部門に応募・推薦のあった全広告活動を対象に審査した。

(1) 第1次予備選考会＝6月11、12、15、16日

広告主部門の全作品の中から、各委員がそれぞれ20作品を推薦した。また、新聞社企画部門は新聞社企画部門の審査基準に従い、自社作品を除く全作品を15点満点で採点した。

(2) 第2次予備選考会＝6月23、24日

選考に先立ち座長に佐溝剛至・広告プロモーション部会長（中日東京）を互選した。

23日は新聞社企画部門を選考し、第1次予備選考会の採点結果をもとに議論を尽くし、21作品を選考分科会上申することを決めた。

24日は広告主部門を選考した。第1次予備選考会の投票結果を踏まえて、93作品を第2次予備選考会の審査対象とし、審議・投票を重ねた結果、30作品を選考分科会上申することを決めた。

2. 新聞広告賞選考分科会＝7月23日

広告委員会常任委員およびアートディレクターの中島祥文氏、コピーライター、クリエイティブディレクターの一倉宏氏が構成された選考分科会で、予備選考会から上申された候補作品を審査・選考した。

選考に先立ち座長に松田陽三・広告委員会副委員長（読売東京）を互選、佐溝・予備選考会座長が、応募状況・応募作品の傾向、予備選考の経過と結果、上申作品の推薦理由を報告した。

新聞社企画部門については、予備選考会から上申された21作品を閲覧のうえ、30点満点で採点。予備選考会の点数を加算し、それを踏まえて審議した結果、5作品を新聞広告賞、5作品を奨励賞の受賞候補とした。なお、自社作品には投票権を認めなかった。広告主部門については、30作品を対象に作品閲覧のうえ連記式の投票により入賞16作品を選び、その中から1社1作品を新聞広告大賞、5社5作品を新聞広告賞、10社10作品を優秀賞の受賞候補に決定した。以上、計26作品を新聞広告賞選考委員会に上申することにした。

3. 新聞広告賞選考委員会＝7月24日

7月度広告委員会が最終の選考委員会となり、松田・選考分科会座長が選考経過について報告した。広告委員会は選考分科会からの上申を最終選考結果とし、9月度理事会の承認を得ることとした。

4. 理事会＝9月2日

新聞協会理事会は、新聞広告賞選考委員会からの選考結果と選考経過に関する報告を承認した。

第35回新聞広告賞選考委員会委員名簿

朝日新聞東京本社	広告局長	金山達也	千葉日报社	広告局長兼TV・FM室長	松本祥彦
毎日新聞東京本社	取締役広告担当兼広告局長	手塚泰彦	山梨日日新聞社	取締役広告局長	西川新治
読売新聞東京本社	取締役広告局長	松田陽三	静岡新聞社	取締役営業局長兼業務部長	村松重一
日本経済新聞社	執行役員クロスメディア営業局長	鈴木克之	信濃毎日新聞社	取締役広告局長	石田西典
東京新聞	広告局長	吉川克也	中日新聞社	広告局長	飯田義典
産経新聞東京本社	営業局長	納幸一郎	岐阜新聞社	広告局長	林壮夫
ジャパンタイムズ	クロスメディア営業部長	小野塚倫	新潟日報社	執行役員営業統括本部広告事業本部長	高橋正秀
報知新聞社	執行役員ビジネス局長	石尾伸樹	北日本新聞社	取締役営業担当営業局長	駒沢信雄
日刊工業新聞社	取締役業務局長	立松直樹	北国新聞社	営業局長	駒田仁隆
日刊スポーツ新聞社	取締役販売・広告事業担当兼広告事業局長	豊隅哲明	福井新聞社	取締役営業本部長兼営業局長	山本道隆
日本工業新聞社	取締役営業・事業本部長兼営業部長	篠原令広	伊勢新聞社	取締役営業局長	石田浩司
スポーツニッポン新聞社	広告局長	中村征爾	京都新聞社	京都新聞COM取締役営業局長	宮本実一
日本農業新聞	広報局長兼事業開発部長	遠藤益功	神戸新聞社	取締役営業本部長兼営業局長	皆川広勉
朝日新聞大阪本社	広告局長	山下博嗣	奈良新聞社	取締役東京支社長	齋田研介
毎日新聞大阪本社	広告局長	嶋谷泰典	山陽新聞社	取締役営業局長	白髭研介
読売新聞大阪本社	常務取締役広告局長	三浦真二	中国新聞社	執行役員広告局長	道菅宏信
日本経済新聞大阪本社	クロスメディア大阪営業局長	保母拓一朗	山陰中央新報社	執行役員営業局長	瀬崎輝幸
産経新聞大阪本社	営業局長	寺本陽介	山口新聞社	執行役員営業局長	宇和島正美
北海道新聞社	取締役広告局長	佐藤剛	徳島新聞社	営業局長	折目尚哉
十勝毎日新聞社	取締役広告局長	和田郁夫	四国新聞社	執行役員広告局長	谷川誉也
東奥日報社	取締役営業局長	蝦名克律	愛媛新聞社	営業局長	泉川哲
デーリー東北新聞社	取締役広告局長	東徹	高知新聞社	取締役広告局長	岡村亨
岩手日報社	常務取締役広告事業担当	吉田誠一	西日本新聞社	取締役営業担当営業本部長兼広告局長	柴田建哉
河北新報社	常務取締役広告事業担当営業局長	中山晴久	佐賀新聞社	執行役員営業局長	井田茂樹
秋田魁新報社	取締役営業局長兼営業本副本部長	小林敦	長崎新聞社	取締役営業局長	山田昌弘
山形新聞社	広告局長	大友志行	熊本日日新聞社	広告局長	堀川孝路
福島民報社	取締役広告局長	花友政	大分合同新聞社	執行役員営業局長	児玉真哲
福島民友新聞社	常務取締役営業・PR担当兼広告局長	渡辺昌俊	宮崎日日新聞社	取締役広告局長	岡本哲
茨城新聞社	営業局長兼水戸支社長	川上俊也	南日本新聞社	営業局長	近藤紳司
下野新聞社	取締役営業・東京・大阪担当営業局長	飛田博通	沖縄タイムス社	広告局長	新垣康淳
上毛新聞社	役員待遇営業局長	中山克彦	琉球新報社	取締役営業局長	糸数
埼玉新聞社	取締役クロスメディア局長兼コミュニケーション事業本部長・印刷担当	宮下達也			
神奈川新聞社	クロスメディア営業局長	古賀敬之			

以上64社64人（2015年7月現在、会員社名簿順、敬称略）

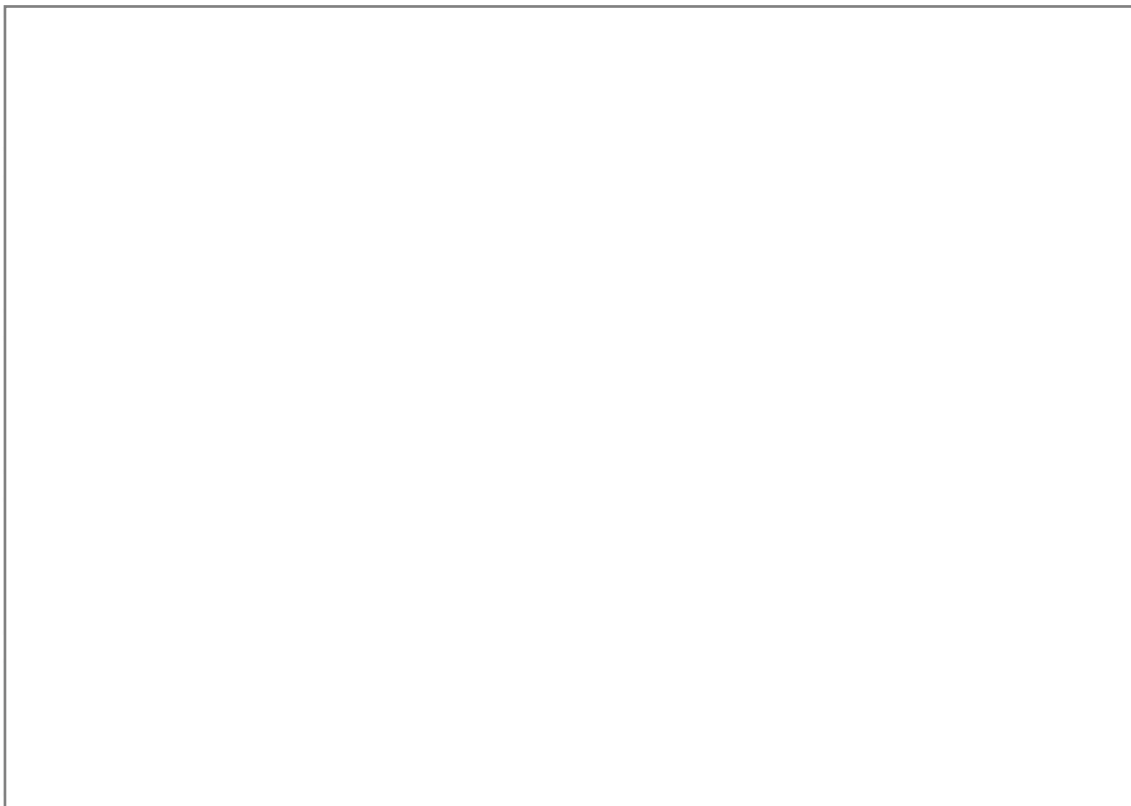
新聞広告大賞受賞告知広告

全 15 段

第35回新聞広告大賞受賞作品

2015企業広告 50 selfies of Lady Gaga 株式会社資生堂

掲載許諾期間終了のためビジュアルを削除しました



日本新聞協会は2015年の新聞広告大賞を株式会社資生堂の「2015企業広告 50 selfies of Lady Gaga」に決定しました。

大賞作品は、レディー・ガガのセルフイー（自撮り画像）50作品を正月広告として全国50紙に掲載し、企業として変革していくことを宣言しました。世界的人気アーティストの起用と広告の全紙切り替えという仕掛けによって、若年世代が楽しめるコンテンツに作り上げ、ネット上でも話題が拡散されました。

1981年に創設された新聞広告賞は「新聞広告活動の全過程」を対象に選考する日本でただ一つの表彰制度です。新聞広告の新しい利用法や表現領域の開拓に成功した活動、広告目的に合った大きな成果をあげた活動、新聞と広告の発展に大きな貢献をした活動一を基準に選考しました。

応募総数は414作品で、日本新聞協会広告委員会（全国の新聞社64社の広告責任者で構成）および外部審査委員2氏による厳正な審査の結果、大賞ほか右記の作品を新聞広告賞に決定しました。

◎ 広告主部門

新聞広告大賞

- 株式会社資生堂 2015企業広告 50 selfies of Lady Gaga

新聞広告賞

- 鹿島建設株式会社 姫路城「平成の保存修理工事」
- キッコーマン株式会社 企業広告 キッコーマン「おいしい記憶をつくりたい」
- 株式会社静岡中島屋ホテルチェーン シリーズ広告 中島屋「同窓会アルバム」
- 焼津グランドホテル「家族物語」
- 株式会社小学館 「小学一年生」創刊90周年
- パナソニック株式会社 食器洗い乾燥機/食洗機普及率ランキング

優秀賞

- 株式会社IHI IHI LOGO WORLD
- 大塚製薬株式会社 大豆で人も地球も健康に、Soylutionキャンペーン
- JX日鉱日石エネルギー株式会社 ENEOS 「聖火はいつも、未来を照らす。」
- 一般社団法人全日本コーヒー協会 10月1日はコーヒーの日
- 中外製薬株式会社 創造で、想像を超える。
- 東京海上日動火災保険株式会社 企業広告「挑戦シリーズ」
- 株式会社トヨタマーケティングジャパン もっとよくしよう、TOYOTA
- 株式会社松山三越 三越らしさは、私らしさ。
- 三菱電機株式会社 シリーズ広告「わたしもMITSUBISHI ELECTRICのユーザーです」
- 株式会社龍角散 察りのどに、龍角散。

◎ 新聞社企画部門

新聞広告賞

- 秋田魁新報社 営業局 秋田魁新報創刊140周年記念「元氣まで届ける新聞」
- 上毛新聞社 営業局、東京支社営業部、地域貢献室 絹の物語 未来へーシルクカントリー群馬キャンペーン
- 中日新聞社 広告局、中日新聞北陸本社 広告部 ハイブリッド印刷装置とデジタル印刷機による可変印刷広告特集
- 北日本新聞社 東京支社営業部 富山もようプロジェクト
- 佐賀新聞社 営業局 COOL ARITA ~未来への挑戦~

奨励賞

- 東京新聞 広告局 東京新聞130周年記念特集「大相撲新聞」
- 河北新報社 東京支社営業部 河北新報 東日本大震災特別企画展 1462days ~アートするジャーナリズム~
- 信濃毎日新聞社 広告局 家族のはなし2014 「家族のうた」
- 北國新聞社 営業事務局 広告部 NEWSPAPER FES!!
- 中国新聞社 東京支社営業部 未来のトップアスリート輩出を目指して「からたうごす大作戦」

一般 日本新聞協会

〒100-8543 東京都千代田区千代田2-2-1 日本プレスセンタービル
電話 03-3591-4407 <http://www.pressnet.or.jp>

◆受賞作品は、新聞広告総合ウェブサイト「[新聞広告データベース](http://www.pressnet.or.jp/adarc/)」(<http://www.pressnet.or.jp/adarc/>) でご覧いただけます。

協会の広告賞時や
新聞協会のデータベース

新聞広告大賞受賞作品については、全15段ならびに全5段の受賞告知広告を
10月7日から12月末日までの間、新聞協会会員各紙において随時掲載する。